

## 令和元年度 第 1 回学校運営協議会記録

1. 日 時 令和元年 5 月 13 日（月） 14：20～15：50
2. 場 所 本校校長室
3. 出 席 大阪教育大学 廣木義久 教授  
八尾市立成法中学校 牧野好秀 校長  
八尾市立八尾小学校 木下由季 校長  
八尾市内学習塾 児玉 隆 代表  
本校同窓会 松村康隆 副会長  
本校 PTA 会長は欠席
4. 協議概要 協議に先立って、授業観察、本協議会の会長の選出、「学校運営に関する基本的な方針」の確認、今春の進路状況に関する報告を行いました。その後学校経営計画、学校評価に関する事項などについて協議を行いました。以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。

### （進路指導・自己実現について）

- 以前から先生方はよく指導されているが、3年生の実績を上げるためには、1年入学時より意識付けが必要ではないか。
- 以前の協議会でも話題になったが、進学も重要だが、高校生に対する教育を考えた際に、八尾高校が掲げる質実剛健や文武両道、骨太の人格といったものがぶれないことが重要である。生活の基本として身の回りの整理などは非常に大事なことであり、そういうことをしっかりやることも大事なことである。

### （広報活動について）

- 昨年度の中学生用資料にもあったが、中学生に配るリーフレットやパンフレットには、八尾高生の言葉があったほうが伝わりやすい。
- 八尾高校の「体育が厳しい」などといった間違っただイメージを払拭するようなコメントがあればいいのではないか。企業が大学生を相手に求人募集を行う際には、トップのメッセージと同時に先輩のメッセージを伝えるが、特に先輩のメッセージは大きな影響力がある。同じように八尾高の1年生の声は中学生に大きな影響力を持っている。ホームページの改定に伴い、生徒の声などを掲載するのは有効な手段の1つではないか。

- 子ども達にとってなにが魅力的なものであるかを考える必要があるのではないか。交通の利便性に影響されて大阪市内に志望が偏る傾向があるが、それに勝る魅力あるものを発信していけば、八尾高校に気持ちが向くのではないか。今でも八尾高校はいい学校であり、進みたい学校である。中学生にとって夢と希望のある学校である。
- 現在の指導体制があれば、入学生徒が増えることでさらなる進路実績の向上がみられるのではないか。
- 八尾タイムズという企業向け新聞社があり、八尾高校の卒業生もいるので、利用することもできるのではないか。
- 卒業生へのアンケートの結果で、卒業時の満足度が94.9%という数字は非常に高い。私学などでもそこまでいかない。なかなか見ることの出来ない数字である。それほど八尾高生の満足度が高いことは、大きなアピールポイントであり、ホームページなどでその点をアピールすべきである。

(その他)

- 授業参観では、高校生らしいなあと感じた。進学実績も上がっているなかで、八尾高生の素朴さも忘れていないのがいい。